

7/11-7/17 聖書日課と分かち合い

岩崎 秀子

7月11日(月) ユダ 1:20 “信仰をよりどころとして”

1:20 しかし、愛する人たち、あなたがたは最も聖なる信仰をよりどころとして生活しなさい。聖霊の導きの下に祈りなさい。

ユダの手紙は「異端に対する烈しい反論の書」です。そういう中であって著者は、信徒たちに「信仰」「祈り」「希望」「憐れみ」を勧めます。わたしたちが共にあずかる救いの共同体である教会こそが、キリスト者の生活の基盤であると著者は語ります。そして、聖霊による祈りは、パウロ神学の特徴であることを改めて思われます。

7月12日(火) 1テサロニケ 5:16~19 “絶えず祈りなさい”

5:16 いつも喜んでいなさい。

5:17 絶えず祈りなさい。

5:18 どんなことにも感謝しなさい。これこそ、キリスト・イエスにおいて、神があなたがたに望んでおられることです。

5:19 “霊”の火を消してはいけません。

喜びと、祈りと、感謝は、キリストを通して示された神の救いの働きに応答するわたしたちの行動の原動力です。それは「いつも」「たえず」「どんなことにも」であり、順調な時だけではなく、逆境の時にも、むしろ逆境の時にこそわたしたちキリスト者は「喜び、祈り、感謝」の応答を神さまにお捧げいたしましょう。

7月13日(水) ヨハネ 16:12~13 “真理の霊に導かれながら”

16:12 言っておきたいことは、まだたくさんあるが、今、あなたがたには理解できない。

16:13 しかし、その方、すなわち、真理の霊が来ると、あなたがたを導いて真理をことごとく悟らせる。その方は、自分から語るのではなく、聞いたことを語り、また、これから起こることをあなたがたに告げるからである。

イエスさまは弟子たちに言いたいことがたくさんありましたが、その時の弟子たちの信仰レベルでは理解できないことを指摘した後、それとは対照的に、弟子たちの共同体を真の理解に導く聖霊の働きがあることを知らせます。そして、真理の霊はイエスの栄光の出来事の意味を告知するのです。わたしたちが生かされている意味を噛みしめます。

7月14日(木) 1ヨハネ 4:1~11 “ここに愛があります”

4:1 愛する者たち、どの霊も信じるのではなく、神から出た霊かどうかを確かめなさい。偽預言者が大勢世に出て来ているからです。

4:2 イエス・キリストが肉となって来られたということを公に言い表す霊は、すべて神から出たものです。このことによって、あなたがたは神の霊が分かります。

4:3 イエスのことを公に言い表さない霊はすべて、神から出ていません。これは、反キリストの霊です。かねてあなたがたは、その霊がやって来ると聞いていましたが、今や既に世に来ています。

4:4 子たちよ、あなたがたは神に属しており、偽預言者たちに打ち勝ちました。なぜなら、あなたがたの内におられる方は、世にいる者よりも強いからです。

4:5 偽預言者たちは世に属しており、そのため、世のことを話し、世は彼らに耳を傾けます。

4:6 わたしたちは神に属する者です。神を知る人は、わたしたちに耳を傾けますが、神に属していない者は、わたしたちに耳を傾けません。これによって、真理の霊と人を惑わす霊とを見分けることができます。

4:7 愛する者たち、互いに愛し合ひましょう。愛は神から出るもので、愛する者は皆、神から生まれ、神を知っているからです。

4:8 愛することのない者は神を知りません。神は愛だからです。

4:9 神は、独り子を世にお遣わしになりました。その方によって、わたしたちが生きるようになるためです。ここに、神の愛が

わたしたちの内に示されました。

4:10 わたしたちが神を愛したのではなく、神がわたしたちを愛して、わたしたちの罪を償ういけにえとして、御子をお遣わしになりました。ここに愛があります。

4:11 愛する者たち、神がこのようにわたしたちを愛されたのですから、わたしたちも互いに愛し合うべきです。

異端も霊的熱狂主義者であるとするれば、彼らも神の霊によっていると主張し、霊的賜物、霊的体験を誇っていたと予測されます。正しい信仰、神に従う生活を送っているかどうかで見分けがつくと著者は語ります。

「あなたがたは神に属しており」（4 説）「偽預言者たちは世に属しており」（5 節）とあり、そしてこの「世にいる者」は悪魔（サタン）を指しています。（ヨハネ 14：30）わたしたちは日々の分かち合いを通して、神に属する者の道を歩むことができると思います。

7月15日（金）フィリピ 4：13 “わたしを強めてくださる方”

4:13 わたしを強めてくださる方のお陰で、わたしにはすべてが可能です。

福音宣教活動は「恵み」であると同時に「キリストのための苦しみ」であるとパウロは語ります。（1 章 29 節）パウロは「恵み」に強められ「恵み」に応答し努力をしました。信徒たちの心遣いのおかげで、物質的にも置かれた境遇にも満足し、その宣教活動を行うことができました。喜んでお捧げする姿をここに見ることができます。

7月16日（土）イザヤ 55：9 “主の思いはわたしたちの思いを高く超えている”

55:9 天が地を高く超えているように／わたしの道は、あなたたちの道を わたしの思いは あなたたちの思いを、高く超えている。

神と人の「思い」ないし「道」の隔絶を語っています。人の道に対して、ここでは神の「赦し」と「憐れみ」という神の救済の秘儀を指しています。神の思いは「憐れみ」を持って人に臨み、既にわたしたちは赦されていることを感謝いたしましょう。

7月17日（日）エフェソ 3：14～21 “でっかい愛がうれしくて”

3:14 こういうわけで、わたしは御父の前にひざまずいて祈ります。

3:15 御父から、天と地にあるすべての家族がその名を与えられています。

3:16 どうか、御父が、その豊かな栄光に従い、その霊により、力をもってあなたがたの内なる人を強めて、

3:17 信仰によってあなたがたの心の内にキリストを住ませ、あなたがたを愛に根ざし、愛にしっかりと立つ者としてくださるように。

3:18 また、あなたがたがすべての聖なる者たちと共に、キリストの愛の広さ、長さ、高さ、深さがどれほどであるかを理解し、

3:19 人の知識をはるかに超えるこの愛を知るようになり、そしてついには、神の満ちあふれる豊かさのすべてにあずかり、それによって満たされるように。

3:20 わたしたちの内に働く御力によって、わたしたちが求めたり、思ったりすることすべてを、はるかに超えてかなえることのおできになる方に、

3:21 教会により、また、キリスト・イエスによって、栄光が世々限りなくありますように、アーメン。

キリストの愛の広さ、長さ、高さ、深さがどれほどであるかを述べ、人知をはるかに越えたキリストの愛を知ることができますようにと著者は祈ります。わたしたちには到底理解できない愛であり、知性では計り知ることのできない愛を注いでくださっていることに、応答できているのかを、常に問われているように思います。